

## 行事報告書(研修)

報告者： 華崎律子 溝部浩二

行事名	自然観察会
実施日時	2018年6月7日(木) 10時～14時30分 天候: 晴時々曇り
場所	甲山森林公園
テーマ	初夏の植物観察
講師	児玉勝久さん、大橋正規さん、飯盛秀穂さん
参加者数	43名
内容(概要)	<p>今月の研修会は、前月と同じく甲山森林公園で行った。新入会員で初めての参加の方々を紹介した後、2班に分かれて実施し、A班は新入会員を含め18名で、児玉さんの指導のもと室内の講義と自然観察を行った。B班のベテラン組25名は大橋さん、飯盛さんの案内で自然観察を行った。</p> <p><b>【A班の観察状況】</b></p> <p>観察コース: 中央入口～ 西入口～ 自由広場 ～ アジサイ園～ 自然の家～ 甲山湿原～ 北入口～ 展望台(昼食)～ 緑橋 ～ 管理事務所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工作室で最初に講師の児玉さんから今年の気候の状況、アジサイ、初夏の樹木の生活、葉の展開、冬芽の形成、初夏の樹木の開花や果実の成熟について学習したあと、観察に出発しました。</li> <li>・コブシやヤマザクラはすでに来年の花芽を用意していること、ヤマモモは果実をつけている枝は葉の展開が遅いこと、オオバヤシャブシなどはまだ順次展葉することを観察しました。</li> <li>・果実はザイフリボク、ウラジロノキ、ニガイチゴ(試食)、ナガバモミジイチゴ(試食)、ミヤマガマズミ、ナツハゼ、スノキ(試食)、サルトリイバラ、アオハダ、ミツバアケビ、コブシ、ヤマボウシ、セイヨウバクチノキ、ソヨゴ、ロウバイを観察しました。</li> <li>・モリアオガエルの卵塊も観察しました。</li> </ul>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>コブシの花芽。若い実もあった。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>クリの雄花花序と雌花</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>イイギリの若い実</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>アジサイは白から青へ</p> </div> </div>

【B 班の観察状況】

観察コース:中央入口～神呪寺道(駐車場横)～甲山自然観察池(昼食)～神呪寺～甲山自然環境センター～湿原観察園～管理事務所

- ・講師の大橋さんの案内のもと中央入口からスタート、すぐに森閑とした神呪寺道に入る。雨上がりの後のさわやかな空気を吸いながら、アオハダ、ヤブニッケイ、ヤマモモ、ヤマウルシなどの樹木を観察しながら神呪寺の山門へ向かう。  
途中でオオルリの声を聴くが、姿は見えず。また、西宮市の「こども環境活動支援協会(LEAF)」が行っている田植えの状況を見学。神呪寺駐車場横の池ではモリアオガエルの卵塊も観察した。
- ・甲山自然観察池では、この地域ではめずらしいクロキがまとまってあり、果実をたくさん付けているのを観察した。同属で一般的なクロバイもあったが、果実は見られなかった。他にハンノキ・エノキ・エゴノキ・マメガキの果実やヒメシャラ・イソノキの花などを観察した。また、水生の食虫植物では北米からの外来種、エフクレタヌキモの観察及び解説があった。
- ・湿原観察園では、講師の飯盛さんから甲山の湿原の状況を聞く。甲山森林公園には全部で5つの湿原があるが、周辺の樹木の落葉などによって富栄養化が進んでいる。毎年落ち葉掻きをしているが、貧栄養化に努めることが課題とのこと。湿原では、ノハナショウブ、カキランが観察できた。



クロキ (ハイノキ科) の果実



ハンノキ (カバノキ科)  
今年の実(果穂)と昨年の実(果穂)



エノキ (アサ科) の果実



イソノキ (クロウメモドキ科) の花  
コクサギ型葉序



ヒメシャラ (ツバキ科) の花 ナツツバキの仲間



ノハナショウブ (アヤメ科) 外花被片の基部が黄